

平成 22 年度第 8 回新宿区外部評価委員会会議要旨

<出席者>

外部評価委員（13 名）

卯月会長、名和田副会長（第 3 部会長）、岡本委員（第 2 部会長）、入江委員、大塚委員、小菅委員、須貝委員、富井委員、中原委員、鍋島委員、芳賀委員、山村委員、渡辺委員

事務局（3 名）

木内行政管理課長、大竹主査、担当 1 名

<開催日>

平成 22 年 9 月 28 日（水）

<場所>

区役所第 2 分庁舎 3 階会議室

<開会>

1 補助事業評価について

【会長】

第8回外部評価委員会を開会します。

本日は、補助事業評価を今日で取りまとめるということになっております。

それから、以前から申し上げておりますが、計画事業に大項目、中項目、小項目みたいに分類があり、まさに中項目の評価をしたほうがいいのではないかとということが前年度から議論が出ていて、前年度はあまりきちっと書けなかったわけです。

個別目標として取り上げたほうがよいというようなことが各部会で出てくればきちんとそこを書こうということで今年度スタートしたと思いますので、それについても各部会からご意見をいただきたいということです。

その他、本年度はまた経常事業という新しい事業の評価手法、今後どうするかという評価手法について諮問されておりますので、引き続きこの外部評価委員会を開催させていただいて11月下旬に答申を出すということで、日程調整をさせていただくことになっております。

さて、それでは、補助事業の評価のフォーマットのお話をしたいと思います。

これまで、フォーマットについてもいろいろ議論をいたしました。その結果の取りまとめです。前回までの議論をそのまま取り入れたものと、それを少し修正した事務局案がありますので、最初にご議論したいと思います。

【委員】

私は後者のほうが賛成です。

【第3部会長】

わかりやすいと思いますが、項目の始まりがどこなのかがわかりにくい。

【会長】

最初の基本目標 I とか何とか書いてあるスタートのところ、工夫の余地ありますね。

【委員】

次のページに送っていただくほうが見やすいかなと思います。

【会長】

ページが増えてしまいますが、読みやすいという側面もあることを考えると。読みやすさも大事ですよ。段落のところで工夫をするか。

【委員】

「4つの視点への意見」というところ、この意見というのは何についての意見なのか、どのことにかかわる意見なのかというのがちょっとわかりにくいということがあると思います。

【委員】

1行あける、あるいは逆に開いていたところを詰める等でわかりやすくしていただければ。

【委員】

「内部評価に対する外部評価結果」からが大事なので、これがしっかりメッセージされるようにしたいと思います。

【委員】

ポイントを上げて強調し、ここからが重要というのを、ちょっと変えてやるとわかるかな。

【会長】

よろしいですか。

それでは、繰り返しますが、各事業はとりあえずページの頭に来るようにする。やはりせっかくのレポートですから、区民にも、もちろん職員の方は当然ですが読んでいただきたい。ページは変えるけれども頭の始まりという雰囲気は弱いと思うので、その辺も工夫しましょう。あと、読みやすさということで、文字の大きさとか文字の字体ですね。

様式はそうに決まりました。ありがとうございます。

では次に、今日の午前中、第2部会と第3部会をやっていたということですので、評価に変更があるのかもしれないと聞いていますが、何かありましたか。

【第2部会長】

補助事業29番の「高齢者クラブ連合会事業助成」ですが、私どもC評価にしたんですが、都からの補助金があり、そのための要綱もあるというので、C評価はちょっと難しいということで、文言は同じでB評価とさせていただきます。

あと、21番「特別養護老人ホーム等建設事業助成」というのはA評価になっていたんですが、もう新規のものがない残務整理なので、評価しないということにしました。

【第3部会長】

第3部会の71番も同じです。

【会長】

第3部会は、A評価かB評価か決まっていなかった事業が1つありましたよね、どうでしたか。

【第3部会長】

64はB評価です。

【会長】

わかりました。

前回議論途中だったのは、D評価という廃止の方向で検討すべきものというのを慎重にやるべきだろうということだったと思います。

外部評価のまとめを書くとしたら、何でD評価なのかということが極めて重要になるんだと思いますので、その辺を確認をしておきたいと思います。

上からいってもよろしいですかね。19番はいかがでしょうか。

【第2部会長】

これは、17年度の答申のときにC評価でした。それに対して、あまり改善が見られなかったということなんですね。さらに、実際の執行の状況を見ても、補助事業の趣旨にも必ずしも合致してないと。ということで、D評価をさせていただきました。

具体的に言いますと、遺族会自身が高齢化しておりまして、また沖縄慰霊が悪いというわけではないですけども、その算出根拠が非常にあいまいである。遺族会の高齢化に対して何らかの対応を考えなければいけないし、平和事業ということであるならば、他の平和事業との連携や統合も含めて考えていいのではないかとということで、D評価とさせていただきました。

【会長】

お気づきの点があったら言ってください。D評価は、ちょっと慎重に。

では、次30番ですね

【第2部会長】

高齢者クラブバス派遣事業、これに関しましては、有効に使われているかどうかということももちろんですが、時代状況から考えて利用者負担ということもあり得るのではないかとということで、17年度についてB評価だったわけですけども、必ずしも事業としての有効性が危ぶまれるということです。それで、D評価という形にさせていただきました。

【会長】

内部評価では効果を発揮しているという評価だけれども、D評価にしたというご説明です。

【第2部会長】

目的の達成状況のところの意見として「新規メンバーが入らず、クラブ会員のメンバーが固定化されつつある現状においては、『高齢者の積極的な社会参加を促進することで、共に支えあう地域社会の実現を目指す』という目標が達成されているとはいいがたい。」ということです。社会情勢の変化を踏まえて、要綱自体の見直しが必要ではないかとということでD評価となりました。

内部評価では、引きこもり防止に有効であると書いてあるんですけども、そうではないと

判断しました。

【会長】

部会のメンバーの方で、何かお気づきの点があったら補足してください。

引き続き36番、分譲マンションアドバイザー制度利用助成。第1部会です。

これは、前回申し上げたように、内部評価でも効果が十分でない、もう出ているわけです。したがって、かなり大胆に変えるということをヒアリングの中でも、私も聞きましたので、あえてD評価とつけて、やり直しましょうということです。

続いて、37番の住宅建設資金融資あっ旋利子補給、これも内部評価で効果が十分でないということで、内部評価がそうなっている以上、D評価という。もちろんC評価の可能性もあるんですが、D評価と今回はしています。

それから、42番のがけ等整備資金あっ旋利子補給、これも効果が十分じゃないという内部評価が出ております。

それから、46番のたばこ商業協同組合への事業助成、これは内部評価では効果を発揮しているということですが、外部評価では、平成17年の評価からこれはさかのぼっているわけです。団体助成を事業助成に切りかえたということだったんですが、形式的には切りかえているということであっても、全く内容を見ると切りかわってないということなので、これは、少し厳し目ではありますけれども、平成17年度の原点に戻っていただいたほうがいいのではないかと思います。

52番の違法駐車防止対策協議会への事業助成、これも、内部評価では効果を発揮しているとなっていますが、次の補助事業53番の交通安全協会とほぼ同じことをやっているということなことでしたね。ということで、これも、ちょっと厳し目ではありますが、D評価にして、53番の方に補足で行政監査のことも書いてあります。

それから、56番、東西自由通路等新宿駅周辺整備促進同盟への事業助成、これは最後まで議論をかなりしたんですが、東西自由通路の整備については一応めどがついたということで、とりあえず要らないのではないかと結論を出しています。

ただ、内部の評価につきましては、東西自由通路等新宿駅周辺整備促進同盟ということで、自由通路は終わったけれども、駅周辺整備促進についてはまだ終わってないというヒアリングだったんです。ところが、駅周辺整備なんていつまでも永遠に続くわけですよ。まちづくりは、終わりはないわけですから。ただ、駅周辺整備は、まだそれほど明確になってないのに補助金を出しているというのはまずいのではないかと思います。と、とりあえず自由通路についてはめどが立ったんだからD評価にした上で、周辺整備のことをさらにやるのであれば新たな事業助成をつくるほうが妥当ではないかという判断からD評価にしたと記憶しています。

【第3部会長】

82番、納税貯蓄組合連合会への事業助成。これについては、納税貯蓄組合という、法律に基づいてつくられたという組織があるわけですが、多くの自治体で廃止されていますが、新宿にはまだ残っているようです。

法律があるわけですから目的は文句のつけようないんですけれども、しかし、現在の補助内容が効果的であるのか納得できないということと、納税貯蓄組合の構成員の高齢化とか組合員の減少に伴って活動が低下しているということを考えると、適宜ここで廃止したほうがいいんじゃないかということです。

これは団体補助ではなく、事業補助なんですけれども、大分時代が違ってしまっているのではということで、第3部会はあまりD評価まで踏み込んだものは多くないんですけれども、これについてはD評価としたということです。

【会長】

はい、ありがとうございます。

今、D評価としたものを見たわけですが、厳しいかなという印象もありますが、妥当なのはという。実際は、C評価も抜本的な見直し検証ということなので、表現としては結構きついわけで、C評価とD評価でほぼ3分の1ぐらいが抜本的な見直し及び廃止という。

相当、結果として見れば厳しいのではないかと考えていますが、これでよろしいでしょうか。各部会の委員にそれぞれの担当のところの文章をもう一度読んでいただきまして、ちょっと表現が違うのではないかとすることがあれば、ぜひ次回までにご指摘いただきたい。

【委員】

内容にわたることですけれども、36番分譲マンションアドバイザー制度利用助成の件で、この古いマンションをどうするかという問題については非常に大きな問題で、D評価の説明なんですけど、この事業が区民に求められていない、とするとしても、「マンションの建替えについて何らかの支援が必要であるならば」ということについては、これは必要であるということは相当共通の認識があるのではないかと思います。

表現がもうちょっと、こういうことについては必要があるので別な方法で支援策をきちっとやるということを区に要請するということが必要ではないかと思いました。

【委員】

わかりました。

これは、我々の部会の中でもかなり出ました。新宿区はやっぱマンションの町だと僕も思っていますので、古い集合住宅、マンションをどのようにこれから建替えるか、あるいは、コミュニティをどのようにその中でつくっていくかというのは、新たな方法が求められているのであって、管理組合があればいいというような嫌いがあったので、もうちょっと今後のことについての期待を書きましょう。

【委員】

26番、保護司会への事業助成。これ、ちょっとコメントさせていただきますが、かなりD評価に近いC評価だということを議論したわけですが、保護司会そのものの事業をC評価としたんではなくて、この中でやっているのは例えばパレード、警視庁の騎馬隊が来て、いわゆる大変華やかなパレードなんですね。そういう意味で、保護司会本来の更生・保護とか、あるいは犯罪者の更生、それから非行防止、そういう事業からかけ離れているのではなからうかという、

その事業内容の見直しをしてほしいということでございます。

保護司会そのものは、大変重要な任務を持って活動しているわけですから、その点、誤解ないようにお願いしたいというように思っています。

【会長】

保護司会だけの問題ではなく、第1部会で言えば交通安全協会とか消防団とか、本当に必要なんだけど、助成の内容がずれていないか、あるいはちょっと古いんじゃないかというのは共通している。冒頭そういうのをまとめて書く必要があるでしょうね。

【会長】

今回D評価にはしてないんだけど、C評価にしてあってD評価に近いというようなものは、国や東京都が頼んだりして、つくってくださいと言った経緯がある団体ですよ。これをむげにD評価と言うのは、やっぱりちょっと大人気ない。

だけど、そういう経緯もある団体のあり方が保守的にならざるを得ないというのも事実あるわけだから、やっぱりそれは別にきちんと確認する。そのほうが事実に近いのではないかと思うんですけども。

【委員】

経緯があるというよりは、もうできちゃったら区としては、それはやめさせられないと思います。だから、やっぱりそれはここで、いいとか悪いとかではなくて整理をするということで、区に言わないと区も困ると思うし、これからの若い方々も団体が多すぎてわからないから手伝わないとなってしまう。

【委員】

子どもの安全とか交通安全は、若いお母さん、お父さんはみんな興味のあることなのに、そういう既存の団体に任せきりになってしまうということがいいわけではないですから。

自分たちも何らかの形で参加して、子どもの安全を守ろうと思ってもその隙間がないというか、入る余地もないような形になっている。

【会長】

抜本的な見直しの方向として提示して、まとめて書いたほうが良いような気がしますね。

【第3部会長】

今の点は、補助事業評価にとどまらず計画事業評価でも出てくる問題で、評価の総論的なことについていろいろな書き方があるかと思えますけれども、例えば冒頭、一番弱い形としては序文として書く。

第3部会でも、特に補助事業、計画事業もそうだと思いますけれども、何度か出てきたのは評価指標が適切じゃないのではないかとということです。

ある指標を定めて、これが達成できたから○だと内部評価しているんだけど、そもそもその評価指標の立て方に疑問があるというケースが結構あって、それは割と性質としては共通していて、いわゆるアウトプット評価をしているんだけど、アウトカムのほうが大事じゃないのかということです。

何人イベントに集まったかじゃなくて、そのイベントを通じてどのように施策効果が上がったかということを目指してほしいわけなんですけれども、これは多分非常に難しいことだと思うんですね。そこを何とかしろということと言っただけでは担当課も困るかもしれないけれども、そういう意見を受け取って担当課が考えたらというと、今度は内部評価の手法としていくつかの関連事業をまとめて評価するみたいな手法も考えていかざるを得なくなるかと、そこぐらいまでは序文か何かを書いておいたらいいいんじゃないか。

特に、第3部会は補助事業で、20事業近くの利子補給というカテゴリーに一括されるような、しかし一つ一つそれぞれ違う補助事業の評価をしている中で、利子補給一つとして評価しても、特に内部評価も困ると思うんですね。申請があつて、これだけ助成したから○だとか△だとか。本当にその利子補給をやることで、例えば中小企業の活性化が図られたとか、不況を乗り切られたとか、そっちのほうの指標でやってもらわないとわからないわけなんですけれども、もしその指標で評価するならば、利子補給だけでなく本体の融資のほうから、あるいはもっと他の関連する補助事業とか、それらと一体的に評価せざるを得なくなるのではないかと。

ただ、そういう内部評価のあり方の工夫も求めるみたいな、そういう論調なのかと思えますけれども。

総論的に書くということ、もしお考えなのであれば、その論点も書いて欲しいと思っています。

【会長】

補助事業は今回初めて評価したわけで、区民に直結していることなので、計画事業以上に慎重にやりたいと思ったわけですから、A、B、C、Dという評価の読み方というか、我々が感じたことは文章で補足したほうがいいなとは思っています。

【第2部会長】

補助事業っていうのはどういう目的でやるかということ、呼び水的なものというような意見も、多分あったと思うんですね。

そうすると、例えば、もう補助事業だけで50年、60年続いている補助事業って、一体何なのだろうかと。本当に必要だったらば、それは補助事業ではなくてもっと別のものであってもいいんじゃないか。

新しい行政課題に対して経常事業にできないので、まずは補助事業でとすると、昭和20年とか30年のころから同じようなことをし続けているということはどういうふうに考えるのか、補助事業というものの性格というのをどこかで定義することが必要なのでは思っていたんです。それがあると、今回のA、B、C、Dの評価、特にC評価とかD評価のところに対しての指摘は、もう少ししやすかったかなとは思いますがね。

【第3部会長】

その点は、第3部会でもよく議論になって、長く続いているからそろそろ見直しと言っているものかどうかですね。

【第2部会長】

そうですね。

【第3部会長】

少なくとも補助という行政の活動のあり方も、性格そのものからは長く続いているからだめだとはなかなか出てこないと思うんですけども、でもいくつか見ていると、やっぱりこの事業こんなに長く続いていて大丈夫なのかなというのもなくはありませんね、確かに。

民生委員とか老人クラブとか、そういうのは長く続いてもいいと思っていますけれども、中には長く続いていてちょっとおかしいような、そういう趣旨の補助事業もあるかなと思うんで、そこはどう言えるかというのは、やっぱり指針があるとやりやすいですね。

【第2部会長】

補助事業で、都とか国とか区がお願いしますというふうな形で始めた部分で補助し続けるというものと、時代の状況の中で行政として対応しなければいけないので、ある団体がやったことに対して補助するというのと同じレベルで考えていいのかということも気になったところです。

現在は、同じレベルで補助事業という形で枠組みはつくられていると思うんですけども。

そうすると、今後補助事業を評価するとき、同じように悩むのかなというあたりがあって、うまく整理できないかと思っているんですけども。

【会長】

補助事業評価をやってよかったかなと思うのは、計画事業にも少しいい影響を与えるかなという印象はあります。

ただ、補助事業は、本当にいろんな経緯でいろんな内容のものが有りますから、補助事業の性格を、もうちょっとよく分けて、あるいは今後の方向についても課題が出ているような気がするんで、その辺も冒頭に書いたほうがわかりやすいですよ。

【委員】

補助事業の評価シートを見ますと、格別目標って出てないですよ。強いて言えば予算額ぐらいで。それに照らしてどうなんだろうというようなことがあるので、その成果指標の話は、むしろ計画事業のほうで扱うべきなのかなという気もするんですよ。

そういう意味で、目標どおりに成果が上がったのかどうかは予算額に対してどの程度の実績があったのかというようなことが基本になってくるのかなとも思うんですけども。

【第3部会長】

評価の指標については、計画事業を念頭に置いて申しました。

補助事業の評価に際しては、要綱を取り寄せたり、あるいは根拠も法律の情報を参照したりして、どういう施策目標のために補助事業が組まれたかということも確認し、それだったらこの指標はちょっと違うんじゃないかとか、そういうふうに考えたので、補助事業、特に利子補給は非常に多いため、一体目的は何だったのだろうということを考えざるを得なくなり、100%の実績だから達成というのは、何かおかしく感じられたという経緯です。

【委員】

補助金の支払い方法についての記述が、全体を見るとアンバランスな気がするんです。指摘

しているところとしてないところがあるんですよ。

【会長】

具体的に言ったら、そのことをもっと網羅的にやったほうがいいと。

【委員】

各事業の評価のところ、前金払いをやっている場合、そのやり方についてどうなのかというところを指摘する。どこまで丁寧に書き込むのかという話があると思うんですね。

【第3部会長】

そのばらつきは、確かにあると思います。

一般論として言うべきことを、個別の事業の評価でたまたま出た意見をそこに書いているというケースはあると思うんですね。それをどのぐらい調整するか。

個別の事業評価について一般論が出ているのはそのままにするとしても、一般論として見出されたことは、総論で書きましょうという話になったんですよ。

【委員】

1部会だと、その他の意見の最後のところで、念のために付記しているという感じなんですけれども。1部会の場合には太枠のところには、あまり書いてないんですね。

【第2部会長】

第2部会のほうでは、前金払いが必要なものもあって。

それでないと、例えば事前に事務所の賃貸料を払えないとか、そんなのもあって、必ずしも前金払いが全部悪いわけではなくて、問題がありそうなところだけちょっと書いているということで、書き方に齟齬があるかとは思いますが、そこはそれなりの事情があるということです。

【会長】

では、事業の性格によって違うのではないかと思うので、全体の話として総論でそのことについて付記しましょう。

補助事業についてはそのように整理させていただくことにしたいと思います。

2 個別目標評価について

【会長】

個別目標評価については、各部会で全く違うと聞いています。どんな感じですか。

【第3部会長】

総合計画のつくり方と関係していると思うんですけれども、個別目標はあまり内在的なまとまりがあるように実際には思えない。縦割りを反映してまとまっているので、少なくとも評価の視点からすれば、内在的な連関があつてまとまっているとは思えなかったんです。利子補給と、もとの融資とさらに別の補助とか、そういう連関があつて、それ全体として内部評価すべき、かつ外部評価すべきではないかというのは、必ずしも個別目標にしてまとめて評価したほうがいいという趣旨ではないんです。

他の部会の方はいかがでしょうか。

【会長】

個別目標、先にありきというのもあるんですよ。入らない事業もあって、前者はきちっと評価できると思うんですけども。ものによって随分違うのかもしれない。

【委員】

例えば、自治と協働とかそういうテーマでくくると、そういう視点で評価するということがあり得ると思うんです。

【会長】

一つ一つの計画事業だと評価指標を立てるのが結構難しいというようなものも出てくるけれども、個別目標に対しての指標を立てたほうがいいケースも、きっとあると思うんですよ。

今までの計画事業は、個別の計画事業の主だったものだけを持ってきて、個別目標の指標にして、積み上げと言えば、聞こえはいいんですけども、必ずしも基本構想における体系と、そこでぎくしゃくした印象がある。本来、外部評価はそれぞれの事業の評価だと言われているので、なかなかそっちに持っていきにくいんですけども、何か工夫があってもいいかなと。

【委員】

第3部会としては個別目標の議論はしている時間がなかったのですけれども、いわゆる計画事業の枝事業で、類似の経常事業がぶら下がっているんですね。

基本施策のかたまりで見ると、その辺の計画事業の全体が把握できるということがありまして、ヒアリングでいくつか経常事業の資料の請求程度まではしました。基本施策というカテゴリで、計画事業とそれに関連する枝事業をかたまりとして一応見るといって、そういう目でヒアリングもしました。

個別目標は、その上のランクで、他の部分と一緒にになって個別目標になっています。

【第2部会長】

第2部会は、常に個別目標を意識していたというわけではないんですが、個々の計画事業の中で、それを評価するに当たって個別目標と比べて、それは違うのではないかとか、個別目標の趣旨から言うともっとこういうことじゃないかというようなのを評価している部分もあります。全部じゃありませんが。

個別目標を通っていったほうが担当課として認識してもらえないかという含みがあります。

【会長】

今回計画事業で補助事業を評価してみて、どうしてもやっぱり個別目標、あるいは今の基本施策ということに戻って、何かまとめて書いたほうがよろしいのではないかというものがあれば、書くのはいかがでしょうかというご提案です。すべてではありません。

【第2部会長】

個別目標を評価する場合、どうしても経常事業のあり方を無視するわけにはいかなくて、経常事業だけでどうなのかというあたりが一番悩ましいところです。経常事業と計画事業に枝の小さな事業がついていて、それらをトータルにして、個別目標が達成されるのかどうかと

いう見方になるわけですね。

そうすると、今後評価手法を検討するという経常事業とのかかわりを見ないとちょっと言いにくいのかなと思っております。

【委員】

内部評価実施報告書の個別目標のところを拝見しますと、ほとんどがプラスイメージで評価されていますが、例えば、公共サービスの提供体制の見直しというところで、外郭団体の平均収入依存度の改善ということについてのみ、必ずしも十分目標が達してないと評価をしています。今年度は補助金について、いろいろ検討しましたから、そういうことを通じてこういう目標に対して一つの方向感を出そうとしたということはあるのかなというような気がします。計画事業等、補助事業を評価していく中で気になった個別目標についてコメントしていただくということによろしいんじゃないかと思います。

【会長】

第1部会の特徴なのか、例えば安全・安心の問題とかユニバーサルデザインについて、縦割りじゃ絶対できないような、横つなぎという機能がない限りできないので、事業評価ももちろんするんだけど、もうちょっと上で何かコメントしたいというのはありますよね。

【委員】

施策の体系からいきますと、多分そういうことがあるでしょうね。だからなかなか難しいということになっていくんだろうと思いますけれども。

第1部会のほうでは、災害に強いまちづくりとか、ユニバーサルデザインなんかでくくって書いたらどうかということが出ましたよね。そういったものは、区民にとって重要なコンセプトみたいなものだと思うんですよ。そういったものが他の部会の関係でもないだろうかというところだと思うんですよ。

【会長】

正確に言うと、個別目標評価じゃないのかもしれませんがね。

【委員】

厳密に言えばですね。

【会長】

計画事業を評価していく中で出てきた、個別の事業評価の中で表現し切れないことを指摘する。個別の事業評価の中で書いているんだけど、それをまとめて総括的に書くともっと伝わるんじゃないかというようなことがあれば、総括として書いてもいいんですけども。

【委員】

総括的なくくりの中で出すとかですね。

【第2部会長】

いくつかの計画事業と補助事業で議論しているものがありますので、それを例えば共通して「生涯にわたって学び、自らを高められるまち」のような個別目標の中で、「学校教育なり社会教育なりをトータルに考えていく必要がある」みたいな、「図書館の利用も、そういうこと

を念頭に入れて」みたいな書き方というのはできます。

【委員】

個別目標の中で、今おっしゃるように「生涯にわたって学び、自ら高めるまちづくり」という個別目標に対し、計画事業の総合運動場及びスポーツ環境の整備の視点から言うと、まだまだ区民としては現実にはほど遠い。こういう評価は、出ますよね。

個別目標を評価するということは、どちらかということ、関連計画事業を総合的に評価するということになると思うんですね。

【会長】

昨年の外部評価結果報告書の各事業の評価の頭に個別目標の一覧が出ているんですが、頭書きみたいに読まれてしまっている印象があるので、頭に書かないでこの計画事業の後に、例えばここで言うと、33、34、35とここあって、その後に、31、33、36に共通する何かコメントとか提案とかと、何か一項目つくって、そこでコメントを書く。そうすると必ず読んでもらえるし、ないところはなくてもいい。

【委員】

今年度の内部評価結果が「計画どおりに進んでいない」という個別目標もあるんですね。方向性で手段の改善というのを提案されているところもある。こういうところについて評価するということではどうか。

計画事業から積み上げて答えを書くというよりも、内部評価されている内容に対して、今までの議論を踏まえて書くのが一番いいんじゃないかという感じがしますけれども。

【会長】

第3部会でどうですか。例えば地区協議会の話。「コミュニティの活性化と地域自治を推進するまち」。

【委員】

計画事業では、事業ごとに評価していくから、それを評価するとB評価になったりC評価になったりA評価になったりと分かりますよね。

それを全体でまとめて自治と平等という観点から地域文化部長にぼんと投げるとしたら、もうちょっと違った、事業ごとにはA評価、B評価、C評価だけど、全体としての個別目標としては違うコメントを出さなければいけないというのがあると思うんですけれども。そういうことはできると思います。

【委員】

本当に個別目標の評価ということになったら、シートを十分議論をしてまとめていかなければいけないと思うんですよ。そうになっていくと、時間的な制約があるので、そういうことってこれからやっていくのはなかなか難しいだろうということだと思うんですね。

そうした場合には、やはり先ほどの議論に戻るけれども、計画事業の評価をする中で、個別目標の概念について、もう少し考え方を述べていく、整理していくみたいなやり方ぐらいしかできないのかなというような気がしますけれどもね。

【委員】

実際、皆そうかもしれないです。

【委員】

一部だけに触れるというわけにもいかないと思うんです。個別目標の評価といった場合。

【会長】

個別目標評価ということについては、今回はできなきややらない。あくまでも計画事業の評価をする中で、まとめて書いたほうがよいというようなことについては、各計画事業の評価の後にまとめて書く。そのまとめて書くということについては、第1部会は議論してきましたが第2、第3は必ずしもそういうことをしてないもので、どこをまとめて書くかということの議論だけは、次回の委員会の中で時間をとっていただいて、議論を聞いた上で報告に書いたらどうでしょうか。

【委員】

例えば第1で、そういうふうに触れられているのは何の項目ですか。

【会長】

Ⅲ-3「安全で安心な、質の高い暮らしを実感できるまち」のところなんですけれども。

それと、個別や基本施策の名称には入ってないんですけれども、計画事業61番のユニバーサルデザインのところが、その前後の計画事業が絡めた形で、一括してこうだというような言い方ができるんじゃないかということです。

結局、安全・安心は、今後もどんどんやっていただかなければいけないということを強く表現したいということです。

ユニバーサルデザイン・ガイドラインは、すごく事業が遅れているんです。それで、もちろん遅れていることは、それだけが悪いわけではないんですけれども、非常にユニバーサルデザインという考え方が、一つの課だけのお話ではないわけですので、その他の事業にもそういう視点があってほしいということを含めて全体で書きたいということになって。

【委員】

災害と同じ。

【会長】

災害論、全く同じです。

建築のほうだけで取り上げるのではなく、総合性を強調したいということがあります。

今までの議論を踏まえてこんなことが書けるんじゃないかと出していただいて、それを次回、議論したいと思います。

次回は、10月5日、10時から12時ということですので、最初の1時間ほど、部会で今の点について話し合うというふうにしたいと思うんです。

では、よろしいですか。

これで終了します。どうもありがとうございました。

<閉会>